

令和4年度 GLEP 海外実務体験報告書（実施後作成）

学部：国際商経学部

学年：2年

氏名：矢野天雪

対象国：中国・香港

期間：2/22～3/15

● 実務体験参加の動機

私は、この実務体験のプログラムがあるのを知った時、自分のインスピレーションで絶対に応募しようと思い、行動に移しました。海外旅行や留学では経験できないものがこの実務体験には必ずあると思い、挑戦したいと思いました。正直、海外実務体験の応募をする際は合格枠が狭いこともあり、合格する自身がなかったのですが、たとえ落ちても良いからとにかく挑戦するだけやってみようという気持ちで直接に挑みました。私自身外国人と意思疎通を図り楽しくコミュニケーションを取ることが好きで、海外に興味があり、大学で何か機会があれば必ず海外に行きたいと思っていたため、絶好のチャンスでした。私にはこの実務体験に応募しない道はありませんでした。

● 実務体験内容

- ・食品輸出のプロモーション・シェフ招聘イベント（高級飲食店で県産食料について全て英語で資料作り・英語でプレゼン、料理下膳・酒提供）、それに向けて兵庫について知ること（渡航前にやった）
- ・中国ビザ取得に向け情報記入、写真撮影
(結果、コロナ関係で厳しく取得できなかつたがビザ取得に向けての行動は良い経験になった。)
- ・ドンドンドンキや数か所のスーパーで食品価格の現地調査、日本価格と比較
- ・兵庫の食材 PR 文、メニュー表、スケジュール表、原稿を英語訳
- ・企業訪問し、営業の様子を隣で見て議事録をつける、街中視察
- ・四国県人会（四国出身の大人が集まるプライベート食事会）に参加
- ・香港国際ダイヤモンド・ジェム&パールショー手伝い（英語で接客）
- ・GO GBA（香港のビジネスについて広東語でトークショー）に参加
- ・日本舞踊・浴衣体験
- ・休日を使って行きたいところに遊びに行く

● 学んだこと、得たこと

実務体験では最初は分からぬことだらけで、調べることが必要不可欠なので人に聞く前にまず自分で諦めずに調べ続けることが大切だということを学びました。現地では、語学についてはもちろんですが、実際に海外で駐在員として働く人生の先輩たちと間近で接し、日本人が海外で働くことの意味や大変さ、そして楽しさを感じることができました。初めて海外に3週間滞在ということで、環境、食、文化で慣れないこと多々ありましたが、これも全て日本においては経験できない貴重な異文化体験でした。やはり実際に、現地に足を運んで自分の目で確かめる、肌で感じることは、机の上やインターネットからでは学びきれないものがあります。たくさんの知らないことに触

れられ、こんな場合はどうするのか、どうするのが最適解なのかをたくさん考えました。自分を成長させる良い機会になりました。

また、今後の就職について考える機会が増えました。香港で活躍する社会人からたくさん生の声を聞き、自分がどういう道に進むのか将来像をたくさん考えることができました。渡航する前に比べて就職について深く考えることができ、働くことの大変さを感じました。香港人と日本人では働き方や労働に対する意思が違うので、就職の在り方について日本のみでなく海外と比べられたのも良かったと思います。

● 印象に残ったこと

香港は、世界中の人が集まる国際色豊かでカラフルな街だと思いました。ですが、慣れ親しんでいる感じやひらがなが街中に多くあり、親近感もありました。英語が母国語でないものの、商品は広東語と英語の両方が記載されており、街中の看板には広東語と英語表記がほとんどです。日本語や日本の商品も多くありました。あと、工事中の建物には日本の竹が至る所で使用されており、見ていて危なっかしいと思っていたが丈夫なのだそうです。食は予想通り全部とても最高でした。香港では混雑時のレストランでは知らない人と相席するのが普通で、緊張しながら知らない人と対面で食べました。まだまだたくさんありますが、日本との相違点を探すのが楽しかったです。

● 苦労したこと

全て自分で準備して海外に行くというのは初の試みであったため、心配な部分や不安な点もたくさんありました。準備の段階から、予約にてこずり立ち止まることが多かったです。また、私の語学力（英語）は、決して高いものとは言えない（英語の授業で聞き取るのも苦労するくらいの）状況だったため、少しずつ勉強しました。現地では、とりあえず喋らないと通じるものも通じないのでとにかく知っている単語繋げて喋る+ジェスチャーを使いました。何日かすると慣れて普通に英語でコミュニケーションを取ることができるようになりました。広東語は学んでいなかったので英語で話していましたが、広東語の単語が少し理解できた時や、知っている中国語が聞こえてくると嬉しくなりました。この実務体験での経験を自分のものにできるかどうかは、滞在中の自分の行動にかかっているため、怖気づかず色々な事に挑戦して試行錯誤しながらの毎日でした。滞在中、友人が胃腸炎にかかるハプニングが発生しました。海外で初めて海外保険会社と病院にお世話になりました。しかし焦らず落ち着けば何とかなるので大丈夫です。費用削減のためホテルの部屋を一緒にしていたので、感染対策に気を配らなければならず、友人も私も気を遣い大変でした。このような万が一の病気の時などに備え、そして一人の時間を大切にするため、実務体験中にパートナーがいるのならば、費用は削らないで部屋は別にした方が良いと思いました。せっかくのお金と時間をかける貴重な実務体験ですので、自分が楽しく過ごせるように、お金は必要です。経験にはお金を惜しみたくないのですが、お金は貯めないといけないと思いました。

現地で今まで過ごしたことがないくらい規則正しい生活になりました。到着して翌日からすぐ9時から17時まで働く毎日に体を慣らすのが大変でした。疲れやストレスも溜まりやすいので、しっかり休養を取ることや日本食を持ち込んで食べるなど体調の自己管理には気を付けなければなりません。

● 実務体験参加に当たって必要な語学力・スキル

香港はかつてイギリスの植民地だったこともあり、広い範囲で英語が通じるので私たちのような観光客は、英語で意思相通を図ることができました。しかし、ローカルな場所に行くと基本広東語しか喋れない人ばかりなので、基本ジェスチャーでコミュニケーションを取りました。英語に力を入れて勉強するほうが良いと思いますが、中国語の看板や中国語が聞こえてきた時に理解できたり、現地で現地の言葉を少しでも話すことができたりすると、異文化理解に繋がりより楽しいと感じました。私の場合、1回生の時に第二外国語で中国語を学んだのと、2回生で GLEP 科目の中級中国語、+スマホの語学アプリで学んだうえで現地に行くと、単語の理解や挨拶程度だと理解できました。全文理解、日常的に使うとなると厳しいですが、学んでないとでは大きな差があると思います。中級中国語は、GLEP 科目に当たるため、ぜひ積極的に履修することをお勧めします。現地の駐在員の方は、広東語はわからないため、基本英語で営業活動しているようです。英語はやはりどこでも必要になると痛感しました。

他のスキルで必要と感じたのは、とにかく挑戦すること、そして何でも事前に調べて準備することです。挑戦しないと何も始まらないということを強く実感しました。やりたい、行きたいと 1mmでも思つたら絶対に行動したほうがいいです。若いうちにたくさん挑戦してたくさん学びましょう。あと、この実務体験というのは先生や大人に頼るのではなく、全て自分で用意していくものです。ホテルや飛行機の予約、研修期間、研修内容、全て自分で考えます。日本でしっかり事前に調べて、渡航前に準備できることは準備してしまうのが吉です。自分のやりたいことを明示すると、現地の事務所の方はそれに応えてください、想像を超える経験をさせてくださいました。準備をすることで、現地で何をしないといけないのかが明確になります。準備量が実務体験の質量を変えると言っても過言ではないかもしれません。また、海外という点で予定通りにいかないこともあるので常にプランをいくつか用意しておく必要があります。たくさん調べてしっかり準備するのがこの実務体験を制します。私は、3週間丸々研修期間に当たましたが、50 時間を 2 週間で働き終え、残り 1 週間は自分の好きな時間（近隣の他国に行く、旅をする等）に当てるという時間の使い方もありだなと思いました。

● この経験を今後どう活かしていくか

私は、この実務体験で得た力・知識、感じた現地の空気、興奮が冷めないうちに、思い出だけにならないように、毎日感じたことを新鮮なうちに、その日のうちに細かく記録を付けました。それを今後の語学勉強や進路活動のモチベーションにし、海外旅行やワーキングホリデーに生かすようにします。身を持って感じた英語の必要さを忘れず、英語を勉強します。楽しいことだけではなく、働く大人の大変さを経験し、かなり将来の自分のイメージ像が形になってきました。自分が今後どんな人生設計を描いていくのかのヒントにし、就職などを考えていきたいです。繰り返しになりますが、恐れず挑戦する力、事前の準備力は日常で生かしていきたいです。

● 後輩へのメッセージ

みなさん、きっかけは本当に何でも良いです。もし少しでも実務体験に参加したいと思ったならば絶対に応募してみてください。お金はかかりますが、対価以上のものが必ず得られます。落ちたとしても応募したことには意味があるし、応募しないと何も自分の歴史は始まりません。自分の人生に色を付けられるのは自分しかいないですし、沢山の色を付けて将来に活かすとても良い機会にな

ります。私は、この実務体験に参加したことによって、参加前の自分より経験が増え、恐れず挑戦することができるようになり、成長できたと思っています。貴重なお金と時間をかけて参加するのだから、何のためにこの実務体験に参加するのか、という意義を考え、旅行ではなく実務体験でしかできないことを体験してください。（もちろん楽しむこともとても大事です！）休日を使えばたくさんの所に遊びに行けたので楽しい思い出もできました。毎日葛藤しながら、苦労して頑張って楽しくて素敵な自分だけの経験を作ってください。どんな経験になるのかは自分次第です。

以上



令和4年度 GLEP 海外実務体験報告書（実施後作成）

学部：国際商経学部

学年：2

氏名：秋山みゆり

対象国：香港

期間：2.22～3.15

● 実務体験参加の動機

- ・大学生活で何か一つ頑張ったと思える大きなことがしたかったから。
- ・海外で働くということに憧れていたため。
- ・就職活動で話せるから。自分が何の仕事に興味があるのか、何に向いているかを知るため。
- ・何か GLEP に入って良かったと思えることをしたかったから。

● 実務体験内容

①シェフ召喚イベント

香港のシェフを兵庫県の食材や日本酒のコース料理でもてなして、各シェフのお店で兵庫県のものを取り入れてもらう。兵庫県の企業が香港で取引をするための橋渡しのようなお仕事をしました。

- ・企業からもらった各食材（香住ガニ、なた豆茶など）の特徴を英語に訳し、当日英語でプレゼン
- ・当日のスケジュール表やメニュー表の作成（ワード、パワポ）
- ・日本酒を注ぐ、配膳など
- ・取り扱う日本酒の代理店との打ち合わせ
- ・当日のイベントの場所を提供してくださった料理屋との打ち合わせ、シェフに配るお土産の仕分け



②パールショー

日本の真珠協会が香港で出店するためのお手伝い。1支店の接客をしました。

- ・商品を売る、尋ねられた質問に答える（英語）
- ・ブースの片付け



事務所があるビル→



③電話対応（一回のみ）

事務所にかかってきた電話をとって、会社名と名前を聞いて折り返す普通の電話の対応、日本語で

● 学んだこと、得たこと

海外で仕事をしたという自信、目上の人と話す際のコツ、社会に出た際に損をしないような立ち回りや転職などリアルなこと、公務員や銀行のこと、ワードスキル

● 印象に残ったこと

香港人は一部の日本人にあるような陰湿さがなく人目を気にすることがないから非常に過ごしやすく気持ちが楽、会計時などお礼を言うだけでほほ笑んでくれる、というような日本にない良さが好きです。また、休日にマカオに行けたことも嬉しかったです。ヨーロッパ風の街並みをアジアで見れるとは思いませんでした。

● 苦労したこと

- ・胃腸炎にかかってしまい、水も飲めない状態が数日続いたことがかなりしんどかったです。相部屋にしていたので申し訳なさもあり、身体的にも精神的にもやられました。寝込んでる際に実際に清掃風景を見て思いましたが、最低限の清掃しかされません。ホテルにチェックインしてすぐ水回りなどを除菌すればよかったですかなと思っています。

- ・海外の人は時間にルーズだというのは実際に経験して知っていましたが、本当に想像を超えるルーズさだったので、場所を借りて開催していたシェフ召喚イベントの時には全ての内容が時間内に終わるかという点でかなり焦りました。

● 実務体験参加に当たって必要な語学力・スキル

・日常会話レベルの英語、簡単な接客英語、正確な発音

生活する上では、ホテルや空港で使ったりするものや簡単な日常会話ができれば大丈夫です。業務関連では、イベント時と資料作成時に英語を使いました。イベントは商品を売る接客、兵庫県食材のPRなどです。食材の特徴を伝える際に英文を読むこともありましたが、相手に伝わらないといけないため正確な発音が必要です。資料作成に必要になる文法はこれまでの受験英語の基本知識があれば問題ないです。

・広東語は必要ありません

私がお世話をした事務所は日本から出向してきた日本人と日本語が話せる香港人しかいないため、事務所内で広東語を使うことはありませんでした。ただ、イベント時に話せたら役に立つだろうなとは思いました。しかし、そこで必要になるレベルは仕事に関与する食材の単語がすぐ出てくる、日本語で聞いたことをすぐに通訳できるようなネイティブルベルです。そのため、現段階で英語がネイティブルベルな人やどうしても現地の言語でコミュニケーションをとってみたいという人は広東語を勉強し始め

ても良いのかなと思います。県大の第二外国語にある中国語とは種類が違うもので香港の方も発音が難しいと言う程のものなので自分の余裕に応じて習得するかどうかを決めることをおすすめします。

- ・自分の意見を伝えるコミュニケーション力

事務所の方々は私たちの意見を取り入れようしてくれる優しい方々ばかりでした。そこで、自分で提案したものが通ると、より自分がその業務に従事している感じがして楽しく充実した実務体験になると思います。

- ・基本のワード、パワポのスキル

普段の提出物や大学の授業の中で自らすすんでパワポを作成したりしていれば大丈夫です。

- この経験を今後どう活かしていくか

事務所には兵庫県庁からとみなと銀行から出向で来ている方がいらっしゃって、公務員と一般就職のことや双方の関係なども教えていただけました。私はこれから始まる就職活動において公務員か一般就職かで非常に悩んでいるため、どちらにするか決める判断材料にしようと思っています。

あとは、これから大学生活や社会人生活で緊張や不安が生じた時に、このプログラムに応募した勇気と3週間海外で仕事をしたという自信で乗り越えていける気がします。

もちろん、自分の知らなかったワードのスキルなども少し学べたので、早速使っています。

- 後輩へのメッセージ

私はこの香港の実務体験に英語を使って働く経験をしてみたかったため応募しましたが、海外で働いてみたいという人だけでなく、銀行や公務員志望の人や就職に迷っている人などこそ参加してほしいなと思います。

実務体験は留学の学校のカリキュラムのようなものは存在しません。業務内容は毎年変わってくるので参考程度に見てください。

色々な話を聞けるいい機会ですが、教えてくれるのを待つのではなく知りたいことがあるのなら自分から行動することが非常に大切なので、実践してみてほしいです。香港実務体験、本当におすすめです。ぜひ勇気を出して応募してみてください！

